

# 田中たかし

議会通信 vol.20 (2023年 秋号)

決算特別委員会

福岡市民クラブ

## 令和4年度一般会計決算を認定せず!

写真:再び能古島 今回はコスモスを堪能 ※進入許可エリアで撮影しています。前回のマリーゴールドの感動が忘れられず、秋たけなわの「のこのしまアイランドパーク」へ。一面のコスモスに埋もれて、娘と大はしゃぎしました。



福岡市議会9月定例会が開会され、一般議案の審議に加えて、**決算特別委員会**において福岡市令和4年度決算が審査されました。

田中たかしは9月1日の議案質疑、そして10月3日の決算総会質疑の2回質疑に立ちました。決算特別委員会では田中たかしが所属する福岡市民クラブは福岡市令和4年度一般会計を「**不認定**」と判断し、執行部の市政運営の課題点を明らかにしました。

用語解説

### 令和4年度決算特別委員会とは?

令和4年3月に成立した福岡市予算が適正に執行されたか、費用に見合った事業効果があったのかを中心に決算書や監査意見書などをもとに審査を行います。

福岡市議会の場合、9月議会中に決算特別委員会が設置され、全員が一堂に会す「総会」、常任委員会ごとに設けられる「分科会」で審査が行われます。

用語解説

### 決算を「不認定」とは?

決算審査の結果、議会としてこれを不認定とすることがあります。不認定となった場合でも、予算執行の効力には何ら影響しないものとされていますが、首長の政治的、道義的責任が問われることもあります。

また、自治体が議会から決算不認定と判断され、それを踏まえて必要な措置を講じたときは、地方自治法の規定により、速やかにその内容を議会に報告するとともに市民に公表することが首長に義務付けられています。

#### 田中たかしのプロフィール

福大大濠高校卒業  
拓殖大学卒業  
法政大学大学院修了  
国会議員政策秘書 等

福岡市議会議員(2期目)  
福岡市民クラブ政調会長  
総務財政委員会委員  
議会運営委員会委員 他

#### 田中たかし市政相談所

住所 〒819-0378  
福岡市西区徳永北14-27 1F  
Tel・Fax 092-407-6236  
E-mail tanakatakashi.office@gmail.com



Facebook



ホームページ

## 脱炭素関連事業のあまりにも低い予算執行率。課題設定に誤りが? ニーズを的確に捉えていない? 事業見立ての甘さを露呈。

福岡市はカーボンニュートラルの実現について、国の目指す2050年を10年上回る2040年を目指しています。それに伴って令和4年度には「地球温暖化対策実行計画」の改定を行い、「未来につなぐ脱炭素のまちづくり」に関連する多くの事業で前年度からの予算の拡充、新規事業を計画していました。さらに、年度途中には、1億2,000万円余の追加補正を行い、ECOチャレンジ応援事業の内容を拡充しました。

しかし、複数の事業での予算執行率が著しく低いことが判明。事業別にみると、11ある事業中、50%未満が6つ、中には執行額0という事業もありました。関連事業トータルでみ

ても執行率は55.7%。直近4年間で、95%、89%、85%、93%と8割以上の執行率であったことから、令和4年度は執行率が極端に低いことがわかります。また、補正予算を組んでまで実施したECOチャレンジ応援事業は1億円の扶養額、前年度好評であったことから継続された住宅用宅配ボックス導入助成事業も1億8,000万円を超える不用額を出しています。あまりにも事業計画、見込みの設定が甘いと言わざるを得ません。温暖化対策実行計画の改定初年度に、その半数以上が軒並み執行率50%未満であるということは、十分な政策効果を出したとは到底言えないと判断しました。

## 「子ども習い事応援事業」の利用率が2割と低調。事業の制度設計を再検討し、本来の目的に即した予算の使い方を!

令和4年度に実施された新規事業として「子ども習い事応援事業」があります。この事業は、「貧困の連鎖を断ち切る」というテーマのもと進められ、体験格差の解消を含めて、子どもが生まれ育った環境によって将来を左右されることがないように、個性や能力を伸ばし、自己肯定感を育むといった目的で始められました。しかし、対象としている子どものうち約21.6%しか利用されなかったということが判明。

また、今の制度設計では、この応援事業のクーポンを使う以上、生活保護受給世帯か、ひとり親世帯であることをわざわざ教室や先生に公表することになることから、利用を躊躇

する家庭があることもアンケート結果から見受けられました。この点については、わが会派は当初より指摘していましたが、改善は見られず、加えて、事業の対象者は非常に限定的であり、収入が低い世帯の体験機会を確保するのであれば、少なくとも就学援助を受ける世帯まで拡げるべきです。

さらに利用実績を見ると、約8割が学習塾の利用で、文化・スポーツなどの習い事についてはそれぞれ1割程度の利用にとどまったことがわかりました。利用者の多くが、勉強するための学習塾を選んでおり、体験格差の解消に効果があったとは認定しがたいとしました。

## 来年度予算編成に向けて、福岡市民クラブの覚悟!

今回の決算特別委員会で福岡市民クラブは「決算を認定しない」という判断をしました。しかし、福岡市議会としては「認定する」との決断に至りました。議会内での勢力図から多数決で認定に至ることは想定通りですが、福岡市民クラブは正面から現在の福岡市執行部に異を唱えました。

現在の福岡市は、都心部には最先端のオフィスビルや高級ホテルが建ち、コロナ禍以前の賑わいを戻しつつありますが、物価高や円安などの影響で依然として苦しい生活を強いられている人も多くいます。福岡市経済の好調さは認めるものの、それが市民に還元されているとは到底言えません。

将来的に人口減、税収減が見込まれる福岡市では、市民生活の安定のために今からの備えが重要です。来年度予算編成にあたっては決算不認定の判断を踏まえて、本当の意味での市民の安心・安全を実現するための要望、意見を発信していきます。

